

# 成人看護学実習初期における学生のアセスメント能力

福田 和明、生島 祥江、石田喜美子、  
金川 治美、杉野 文代、岩切 由紀

## I. 研究目的

初期の成人看護学実習においてアセスメントを行う際、学生はどのような点に着目して情報を収集するのか、また、それらの情報をどのように分析・解釈するのかについて明らかにする。

## II. 研究方法

### 1. 研究対象

3年次前期の領域別看護学実習開始早々の時期に、成人看護学実習Ⅰ（慢性期）を履修した学生14名の実習記録（アセスメント用紙）

### 2. データ収集方法

- 1) 本研究に同意し参加した14名の学生のうち、1回目の時点で記録に情報を記入できなかった2名を除いた12名のアセスメント用紙を複製した（1回目：実習2日目、2回目：実習4日目、3回目：実習8日目）。
- 2) 複製したアセスメント用紙は、「健康段階」「発達段階」「12の生活過程（呼吸・循環・体温・排泄・清潔・食・運動・休息（睡眠）・労働・衣・環境・性）」である。

### 3. データ分析方法

- 1) 記録量が少なかったり、誤った箇所に記述していた3名を除外し、残り9名を分析対象とした。
- 2) 1回目のアセスメント用紙の「情報の整理・分類」欄に記述されている内容を抽出し、「12の生活過程枠組みシート」に沿って分類した。
- 3) 同様に、3回目のアセスメント用紙の「情報の整理・分類」欄に記述されている内容を抽出、分類した。（2回目の記述内容は1回目と比較して内容に変化が乏しかったため、調査対象から除外した。）
- 4) 3回目のアセスメント用紙の「情報の解釈」欄に記述されている内容を抽出し、収集した情報をどのように解釈しているのかを分析した。その際、情報と解釈のつながりを考える上で、以下の視点を設定した。
  - ①情報に忠実に解釈しているか、②情報を活用して解釈しているか、③情報は個のものになっているか。

### 4. 倫理的配慮

本研究への参加については自由意思で決定できること、参加の有無は成績評価に影響しないこと、実習記録の複製・指導内容の録音、プライバシーの保護、学会発表の可能性などを対象学生に十分に説明し、同意を得た。

## III. 結果

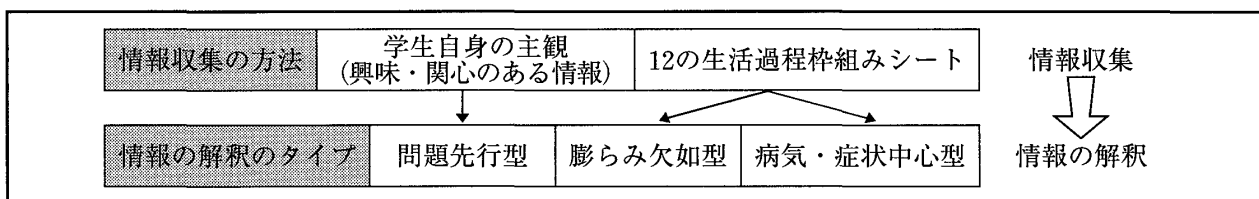


図1：情報の取り方と情報の解釈の特徴、および関連

## IV. 考察

1. 情報収集の方法には2つのパターンが認められた。これは基礎看護学実習における個々の学生の学習体験による影響が伺われ、基礎看護学実習終了後の振り返りが重要と考える。
2. 情報の解釈には、3つのタイプが認められた。
  - 1) 「問題先行型」は、情報を一つずつ忠実に分析・解釈するのではなく、看護問題を念頭において解釈を進めていくタイプである。情報収集の方法は学生自身の主観によるものであり、当該問題の情報だけに学生は注目していると考えられる。学生自身の解釈が遅れた場合などに指導者（看護師や教員）の影響を受けたためと考えられ、まずは全体像を把握できるような指導が必要である。
  - 2) 「膨らみ欠如型」は、12の生活過程枠組みシートを参考にはしているが、限られた情報のみで解釈しており、不足している情報を明確化できていない。
  - 3) 「病気・症状中心型」は、病態や治療にとらわれ、患者の生活が見えていない。学生の患者把握の視点・価値観・看護観などの影響が伺われ、改めて看護の独自性に関する指導が必要である。